

# 想 い を 聞 く

---

ここでは、「救急医 1,000 人アンケート」の集計結果速報を掲載する。このアンケートは 2016 年の日本救急医学会総会・学術集会において行ったものであり、約 1,200 人もの先生方に今の環境や救急医学/医療への想いについて貴重な声をお聞きすることができた。

実際にアンケートにご参加いただいた先生方はもちろん、ご参加いただいていない先生方にもご覧いただきたいアンケート結果となっている。

---

# 想いを聞く

第44回 日本救急医学会総会・学術集会 実施

## 救急医 1,000人 アンケート

集計結果速報

ここでは、「第44回 日本救急医学会総会・学術集会」において医師を対象に実施された「救急医1,000人アンケート」の集計結果を速報として掲載する。主に各設問に対する回答の割合を、年齢層・男女別の棒グラフに示した。仕事への価値観や考え方が多様化している今日、異なる世代や男女の違いでどのような意識の差があるのか、このアンケートの結果から救急医の「今」に迫りたい。

アンケートの概要と注意点は以下のとおりである。

実施日時：2016年11月17日～2016年11月19日（学会開期中）

実施場所：「第44回 日本救急医学会総会・学術集会」会場内

※グランドプリンスホテル新高輪/国際館パミール

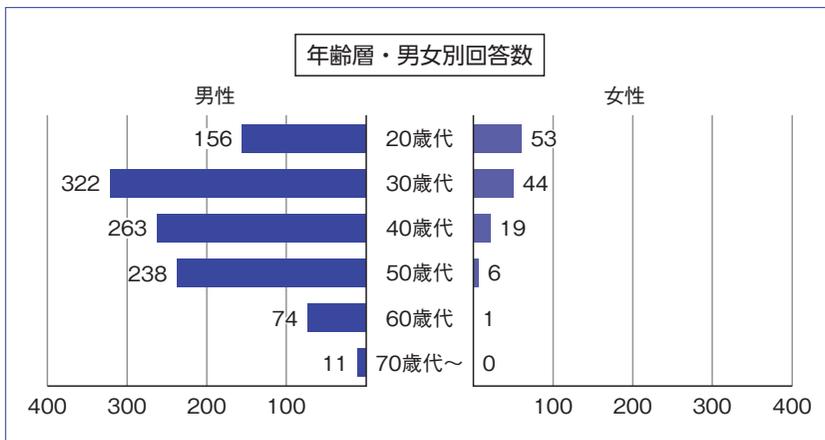
総回収数：1,201件

有効回答：1,187件（無記入4件、年齢層不明10件を除外した）

※なお、設問によっては複数回答や重複回答があり、必ずしも回答数の合計が有効回答数に合致しないことをご了承いただきたい。

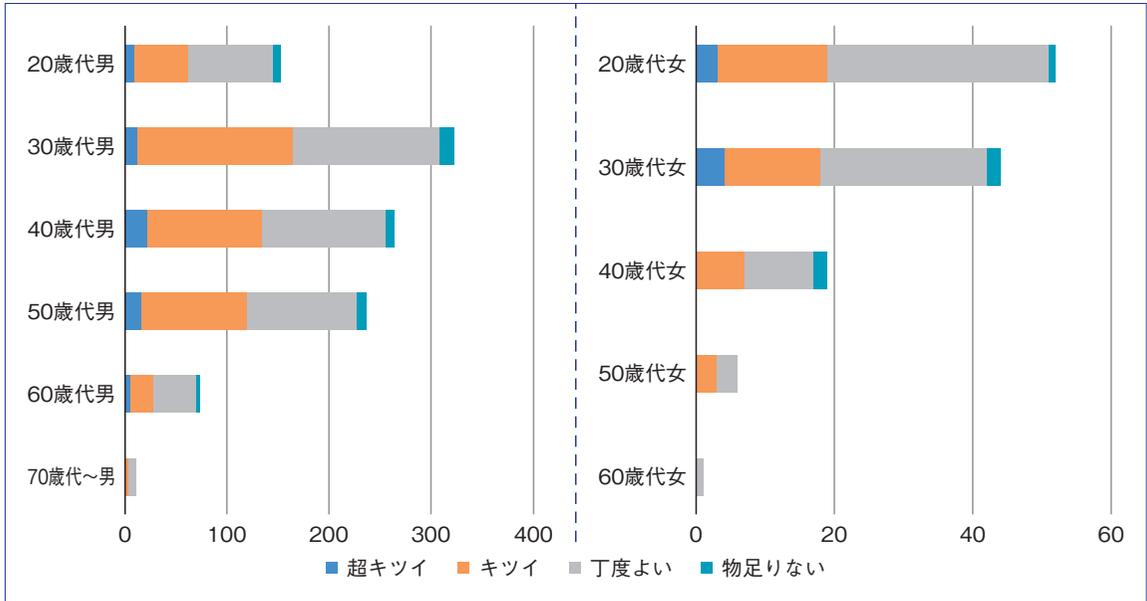
男女・年齢層構成：下記グラフを参照されたい。

サブスペシャリティ：外科，麻酔科，集中治療，脳外科，内科の順で多かったが詳細は割愛する。



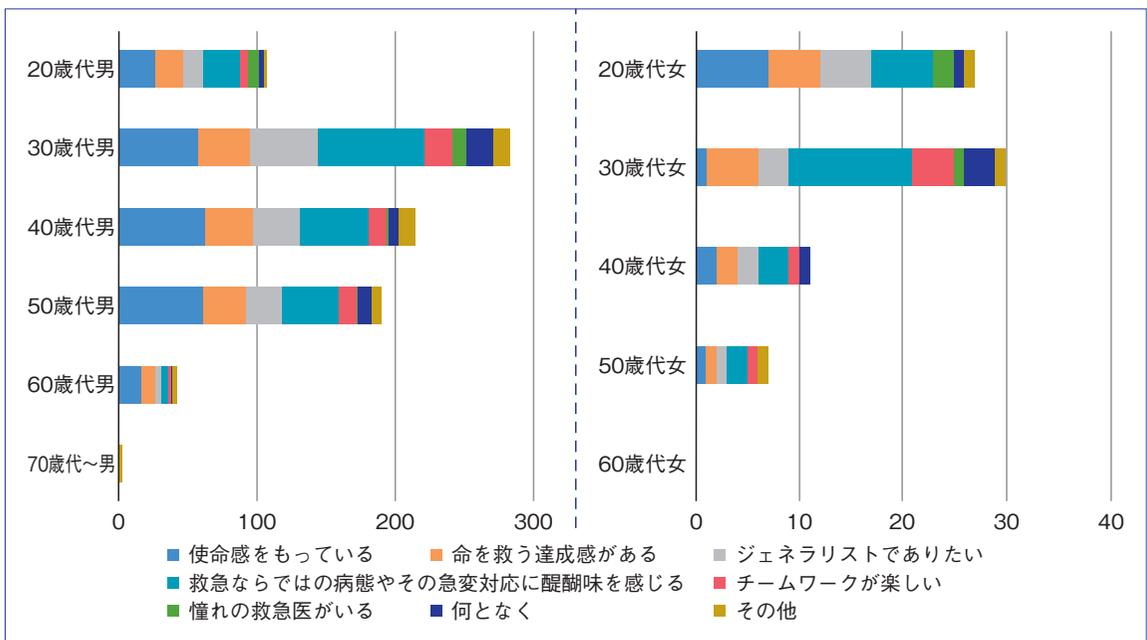
男性は30歳代の回答者がもっとも多く、女性は20歳代の若手者がもっとも多い。また、40歳代では男女比が10倍以上あるのに比べ、20歳代では男性3：女性1程度の割合であり、若手で女性の回答者が多くなっている。

## Q4 仕事のキツさについて



男性では「丁度よい」「キツイ」が各年代でほぼ同じ割合であったが、女性では「丁度よい」の回答が「キツイ」をやや上回るという結果であった。各年代とも「物足りない」が少数ずつある一方、「超キツイ」という回答が男性では40, 50歳代に、女性では20, 30歳代に目立っている。

## Q5 仕事がキツくても続ける理由 (Q4「超キツイ」「キツイ」回答者対象, 複数回答)



仕事がキツくても続ける理由としては、男女とも「救急ならではの病態やその急変対応に醍醐味を感じる」という回答が多かった。「使命感をもっている」という回答が男性では各年代に多いのに対し、女性では20歳代以外は少ないという特徴がみられる。